

## 『ExPLOT Studio』とは

「ExPLOT Studio (エクスプロット・スタジオ)」は、みなとみらい21地区48街区の「PLOT48」において「多様な創造的人材等の創出・交流」の場づくりに向けて、実証実験として運営されるアーティストシェアスタジオ。7区画のスタジオにアーティストたちが入居して作品制作を行います。またアートと企業、IT、福祉、大学など多様な分野との交流を促し、イベントやワークショップなども随時開催します。多様な人が行き交い、アートが社会の様々な分野と出会い、響き合う場を形成していきます。

この実証実験事業は、BankART1929と、株式会社横浜都市みらいが連携・共同し、2025年3月まで展開します。

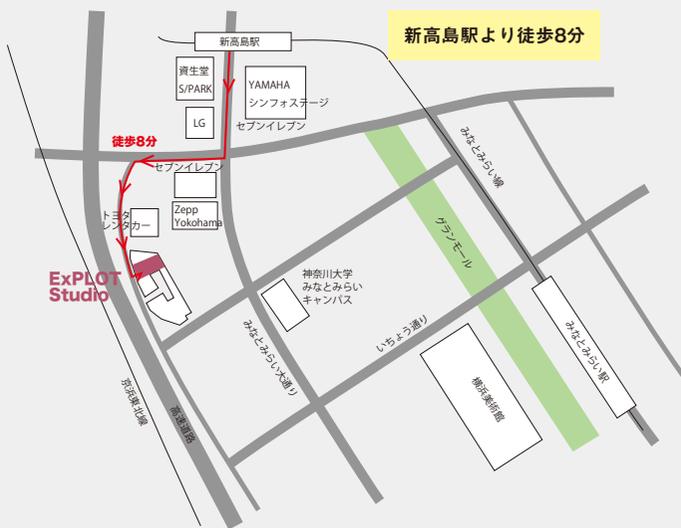


### ExPLOT Studio

運営主体：BankART1929+株式会社横浜都市みらい

問い合わせ：explotstudio@gmail.com 045-663-2812

<https://explotstudio.wixsite.com/site>



# ExPLOT Studio

横浜みなとみらいに、  
アーティストと社会が響き合う  
実験空間が生まれます



# ExPLOT Studio

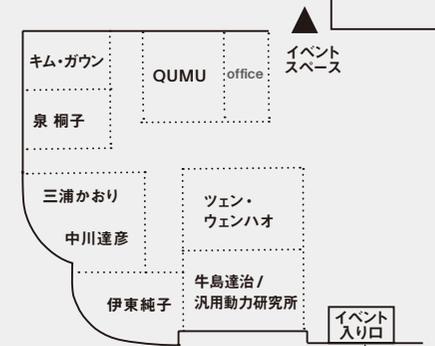
『ExPLOT Studio』(エクスプロットスタジオ)は基本的にはアーティストの制作場所なので、通常は一般に開いてはいませんが、オープンスタジオやイベント時には中の様子を見ていただくことができます。

## 2025年1月～3月の主なイベント

1月10日(金) 18:30-21:00	ExPLOT Studio キックオフイベント+ 台北市横浜市芸術家交流事業ウェルカムパーティ
1月24日(金)～26日(日) 13:00-18:00	オープンスタジオ Vol.1 主催=ExPLOT Studio
1月25日(土) 18:00-	トークイベント「 <b>絵画と科学の対話について</b> 」 加藤巧(美術家)×山脇竹生(株式会社資生堂 ブランド価値開発研究所研究員) 参加費無料、予約不要 主催=ExPLOT Studio
1月26日(日) 14:30-17:30	ジネンコロキウム #15『 <b>内在の覚醒</b> 』 小杉卓(書道家)×宗像基浩(地方創生人) 参加費:会員1000円/一般3000円/学生無料(要予約) 申込先: <a href="https://jinencolloquim15.peatix.com/">https://jinencolloquim15.peatix.com/</a> 主催=ジネンコロキウム
2月毎週金曜(全4回) 19:30-21:00	Unit 11「 <b>シェアオフィス拠点での活動+アートの街中展開</b> 」 参加費無料、要予約 主催=横浜市立大学 <a href="https://creativityyokohama">https://creativityyokohama</a>
2月～3月 水曜(全6回) 19:30-21:00	BankART School 砂山典子 a.k.a SNATCH「 <b>踊ってみたい！パート2</b> 」 受講料:12,000円/全6回 主催=BankART1929
2月～3月 木曜(全6回) 19:30-21:00	BankART School 港千尋+納谷昌之+小島健嗣「 <b>可視と不可視の間に</b> 」 受講料:12,000円/全6回 主催=BankART1929
2月22日(土)～24日(月・祝) 13:00-18:00	オープンスタジオ Vol.2 主催=ExPLOT Studio
3月19日(水) 19:00-	台北市横浜市芸術家交流事業 <b>チェン・ウェンハオ</b> 成果発表展 オープニングパーティ 主催=BankART1929 共催=横浜市にぎわいスポーツ文化局
3月20日(木・祝)～23日(日) 13:00-18:00	オープンスタジオ Vol.3 主催=ExPLOT Studio 台北市横浜市芸術家交流事業 <b>チェン・ウェンハオ</b> 成果発表展 主催=BankART1929 共催=横浜市にぎわいスポーツ文化局
3月23日(日) 14:30-17:30	ジネンコロキウム #16『 <b>蒼穹への眼差し</b> 』 宮崎桂一(サイエンスアーティスト)×平川邦弘(パイロット) 主催=ジネンコロキウム <a href="https://peatix.com/group/11695426">https://peatix.com/group/11695426</a>

## 実証実験中の入居アーティスト

2025年3月末までの実証実験期間  
8組のアーティストが活動します。



### キム・ガウン(きむがうん)

1987年韓国生まれ。イタリアと日本を活動拠点とする。韓国芸術総合学校建築学部を卒業後、画家、絵本作家、ジュエリーデザイナーなど多分野で活躍。2019年より黄金町AIR参加。「世界とのコミュニケーション」をテーマとした細密ペン画を制作。2017年に絵本『君は僕のプレゼント』を出版。イタリアや日本で個展、グループ展に多数参加。2024年の夏から神奈川公園内にある3m(h)×68.5mの工事用仮囲いに壁画「夢を描く人たち」を公開制作で描き、12月にひとまずの完成をみた。この壁画は約7年間残る予定。 <https://gaeun-art.com/>



### 泉 桐子(いずみとうこ)

1992年生まれ神奈川育ち、横浜在住。2017年武蔵野美術大学大学院修士課程造形学科日本画コース修了。主な展覧会に個展「真鴨とシャベル」(GALERIE PARIS/横浜、2022)、「三菱商事アート・ゲート・プログラム2021-2022 支援アーティスト6組による新作展」(代官山ヒルサイドフォーラム/東京、2023)、「日本 NIPPONMANIA マニア」(企画展・kunsthaus kaufbeuren/ドイツ、2023)、個展・BankART Under35/2024 (BankART KAIKO/横浜、2024)等。



### 三浦かおり(みうらかおり)

東京生まれ。京都造形芸術大学卒業。アートと一般会社との間を行き来する日常における余韻、気配、痕跡をモチーフに制作。最近の個展に「識閣」(2024 obi gallery)、「ならされたところの凸凹」(2022 Gallery Camellia)、「しつこい幻」(2021 Hasu no hana)等。主なグループ展に「宇宙時間」(2023代官山 Tsutaya)、「食と現代美術 vol.8」(2021 BankART)、「矢中の杜展覧会」(2020茨城)、「Japan im Palazzo」(2016スイス)他。2025年は都内のホテルやギャラリーでの個展、群馬でのグループ展を予定。



### 中川達彦(なかがわかつひこ)

写真家。大阪生まれ東京育ち。1986年から美術建築ユニット「PHスタジオ」のメンバーとして様々なアートプロジェクトに携わると同時にアーティストの作品や展示風景を撮影する写真家としても活動。2010年頃からBankART1929のオフィシャルカメラマンとして数々の記録写真を担当。作家活動として個展やグループ展の開催、滞在制作として光州市立美術館レジデンシープログラム(韓国/光州、2017) ART SETOUCHI「ライトハウス号が行く〜瀬戸内本島編〜」(香川/本島、2018)などがある。



### 伊東純子(いとうじゅんこ)

東京生まれ、横浜在住。2009年よりオリジナルブランド「un:ten (アンテン)」を立ち上げ、衣装から日常服までの注文服、アート作品など、布で様々なものを制作している。2013年より横浜美術館子どものアトリエからの依頼で制作している「Soft Toy」(ソフトイ)シリーズは、重度障害を持つ子供達が遊べるためのプロジェクト。横浜トリエンナーレ2024では美術館内にこどものアートひろば「はらっば」を展開。2016年より「レジリエンス(回復力)」をテーマに、古い着物を解いて洋服に仕立て直す「着物服 KIMONOFUKU」プロジェクトも進行中。 <https://un-ten.com/>



### 牛島達治 / 汎用動力研究所(うしじまつじ)

1958年東京生まれ。1982年現代美術の寺子屋横浜の「Bセミ」に参加。1984年、捨った石のためのプレーヤーの制作以来「無用な機械」と呼ぶ作品の制作を始め、以降国内外での展示やコミッションワークを多数手がける。1994-1995年A.C.C.の助成でニューヨークに滞在しアメリカの美術をリサーチ。2009年より人力などで移動が可能な装置、移動式工房などの制作と活動を開始。2024年現在、制作と街と人との関わりを大切に工房の運営を創めようとしている。また街の中の特微的な場所に対して表現を仕掛けて行く大規模なプロジェクトも計画中。 <http://ushi-t.org/>



### 鄭 文豪(チェン・ウェンハオ)

横浜市台北市芸術家交流事業で来日するアーティスト。滞在期間は2025年1月4日～3月31日。1994年桃園生まれ。2023年 国立台北芸術大学大学院修了。機械的な動力と空間インスタレーションを組み合わせた作品を多く制作し、近年は家族がパーキンソン病を患った経験から生まれた作品を制作。現時点の滞在プランは市内の高齢者施設やバリアフリーの計画をリサーチし、制作物としては廃棄された医療機器などを用いて機械とファウンドオブジェの組み合わせをイメージし、音などを収集することで体験を物質化して人間と病氣と機械の密接な関係を提案したい、という。 <https://wenhaozheng.cargo.site/>



### QUMU(クム)

現代美術作家らと日本企業のエンジニアらを繋げるオープンプラットフォーム。アーティストとエンジニアが手を「組む」ことで、継続的な制作活動を互いに支援し合い、恒久的かつ安心してモノ作りを行える社会作りを目指して2024年に設立しました。